

通信

いわて地域総研 迎春



朝焼け

撮影 清代 正晴さん

目次

- | | | |
|-----------------------|------------------------------|-------|
| ●表紙写真 | | 1P |
| ●「2023年の年頭にあたって」 | 岩手地域総合研究所 理事長 井上 博夫 | 2P～3P |
| ●「県央ごみ処理広域化計画は撤回を」 | ごみ処理問題を考える8市町連絡会 事務局 黒澤 誠さん | 3P～7P |
| ●「戦争体験の発表・懇話会開く」 | 宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会 代表 前川 慧一さん | 8P |
| ●地名の話 40 「あかおどり【赤尾鶏】」 | 高橋 宏壽さん | 8P |

NPO法人
岩手地域総合研究所

岩手県盛岡市中央通二丁目8番21号 Mホール
Tel・Fax:019-624-6715
メール:i-chi ikisouken@salsa.ocn.ne.jp

2023年の年頭にあたって
新年明けまして

おめでとうございます

岩手地域総合研究所

理事長 井上博夫

許しがたい二つの「大転換」

〜冷静で長期的な思考を停止した岸田内閣〜



2023年明けまして

おめでとうございます。年初にも関わらず不愉快な話題になってしまふことをお許しください。岸田内閣が昨年末にかけて表明した二

つの「大転換」のことです。

安全保障政策の「大転換」

第一の「大転換」は、安全保障政策。

岸田首相は、「昨年末に行った新たな国家安全保障戦略等三文書の策定を始めとする安全保障政策の大転換も、同じ世界観に基づくものです」と述べ、GDP2%への防衛費拡大、反撃能力の保有などを披瀝した(ジョンズ・ホプキンス大学での演説)。

その世界観とは、ポスト冷戦期は終了しグローバル

リゼーションと相互依存で国際社会の平和と発展は保障されないことが明白になった、というもの。

閣議決定した安保三文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)の中身を見てみよう。

国家安全保障戦略は、現代世界を、普遍的価値を共有する先進民主主義国と共有しない国家との地政学的競争だと短絡的に描く。その上でこの価値を維持することが日本の国益だから、我が国の防衛能力を抜本的に強化するとともに、同盟国・同志国との連携を強化するのだと。

必要な防衛力の内容について国家防衛戦略は言う。脅威は能力と意思の組み合わせで顕在化するが、意思は分からないから今後の防衛力は相手の能力に着目して構築すると。相手の意思に働きかけることはあきらめ、力にしか頼れないという短絡。

しかも強化された防衛力は、「侵攻を我が国が主たる責任を持って阻止・排除し得る能力」であり、相手に「コストに見合わない」と認識させ得るだけの能力」だと言う。では日米安保はというと、「インド太平洋地域における現状変更を抑制」することに格上げされている。

そのために必要な軍事力として、反撃能力Ⅱ遠距離から攻撃できる「スタンド・オフ防衛能力」が重視され、「非対称な優勢を確保」とまで言う。

これは、日本が相手を超える軍備をめざすことを意味する。そこで、反撃能力は、武力行使三要件

に基づく必要最小限度の自衛措置だと言い訳するが、ここでの「三要件」とは2015年の安保法制で作られた「新三要件」のことで、武力攻撃時だけでなく、日本への攻撃が発生していない「存立危機事態」でも武力行使を可能にしたものである。つまり反撃能力Ⅱ先制攻撃能力なのだ。

防衛力抜本的強化の内容を示す防衛力整備計画は、今後5年間、10年間で整備する軍備を列挙している。その額5年間で43兆円。

初年度の2023年度政府予算案には、防衛費10兆2千億円を計上しており、前年度当初比4兆8千億円増(9割増)と異例。概算要求時に防衛省が提出した要求・要望額5兆6千億円をも全く無視した配分だ。中には「防衛力強化資金(仮称)繰入」3兆4千億円、と何に充てるかも分からない額すら含まれている。

さらに、軍拡のための財源として、復興特別所得税の流用や防衛国債の新設も言われている。

歯止めのない軍備拡張と言わざるを得ない。世界恐慌と満州事変の時代、高橋是清蔵相は国債の日銀引受けで時局匡救事業費(公共事業)と軍事費を賄った。その後、国債減額に転じようとした時、高橋は2・26事件で暗殺され、戦争拡大から破滅へと突き進んだ。今年度予算は、そんな「大転換」を彷彿させるものであり、安保三文書は、思考停止が生み出した狂信としか思えない。

原発政策の「大転換」

もう一つの「大転換」は原発政策だが、もう紙幅がない。経産省の総合資源エネルギー調査会原子力小委員会が議論された「今後の原子力政策の方向性と実現に向けた行動指針」の問題項目だけ挙げしておく。再稼働への総力結集、既設炉の最大限活用(運転期間40年の廃止)、次世代革新炉の開発・建設(原発の新增設だ。これらの意味するところは、

3. 11原発事故の反省を無視した、将来展望の見えない原発回帰に他ならず、やはり思考停止と言わざるを得ない。

県央ごみ処理広域化計画は撤回を

く地域住民無視、ごみ減量・資源化に逆行、環境悪化など問題だらけ、国の新たな方針で「焼却中心」から「減量・資源化優先」に変化してきている

ごみ処理問題を考える8市町連絡会事務局

黒澤 誠さん

はじめに

前回2021年9月15日通信67号で報告した以降の概要について報告します。

2021年3月24日に開催された推進協議会で盛岡インターチェンジ付近が候補地として決

定され、ごみ処理等を担う一部事務組合の設立は2022年4月になりましたが、12月1日の推進協議会では、一部事務組合設立は1年延期され、2023年4月になりました。延期される理由として、協議会会長、谷藤盛岡市長は「それぞれの組合でごみの仕分けが違い、考えを整理する必要がある、最終処分の問題もあり、協議したうえで事務組合を設立しなければならない。」

その後2022年8月30日の県央ブロックごみ処理施設広域化推進協議会で2023年2月に一部事務組合設置が決定され、関係8市町の12月議会では、一部事務組合設置案が可決されました。これまでも一部議員から広域化構想が明らかになってから、問題点について警鐘を鳴らしてきましたが、「いまさらやめるわけにはいかない」「やめると孤立する」「1カ所が安い」などを理由にして、基本構想から7年経過しても具体的に何も決まらないまま先送りになってきたにもかかわらず、十分な議論もしないで盛岡広域環境組合の設置を決めました。このような状態をつくり出しているのは、20年以上前の県の広域化構想にあります。私たちは、この時代遅れの構想は白紙撤回しないと考えています。

《情報開示で住民不在の議論の実態が明らかに》

流れは変わってきている、

住民が知らないままに計画が進められている

ことに疑念を持ったことから、「盛岡の前潟・太田の会、松園・山岸の会、手代森の会」は令和3年度推進協議会開催以降に開催された「部会」検討会の会議録を開示請求しました。

開示された内容は、住民が全く知らない情報でした。この内容について、記者会見やチラシで明らかにしたことにより、マスコミも大きく報道するなど市民の関心も広がり、新たな展開になっていく状況を作り出しました。

(開示された内容は、新しいごみ処理施設の用地取得範囲の検討に関する情報並びに広域8自治体間による協議および検討に関する情報の一部が、黒塗りで開示されていませんでしたが、大幅な計画の変更も住民には知らせずに進めてきたことが明らかになりました。)

1. 県央ブロックごみ処理施設広域化構想のエリア設定の位置的な問題点

現在進められているごみ処理施設広域化計画は、南は紫波町から北は葛巻町までの3市5町、距離にして東西南北100キロメートル以上、ちようど奈良県の面積に匹敵します。この3市5町のごみを盛岡市に運んでくるという計画です。

県央ブロックエリアは、県の人口の約4割、面積は約4分の1を占めます。ここには、既存の紫波・矢巾・旧都南環境組合があり、効率的な運営

がされています。また、滝沢・雫石環境組合、岩手町・旧玉山環境組合もあり、これらについてはミニ広域化といえるものであり、県央ブロックとして1カ所にしななければならない理由はありません。このような事情を考慮に入れないままにエリアを設定した計画に問題があります。

2. これまで指摘してきた広域化の問題点

(1) 広域化計画の根拠がことごとく破綻

1) 広域化しなくても補助対象になる、ダイオキシン対策もできる

県央ブロックのごみ処理広域化計画は、ダイオキシン対策として20年以上前につくられました。したが、すでに小規模焼却施設でもダイオキシン対策は対応できるようになりました。さらに盛岡市が関係7自治体を説得した根拠「広域化しないと補助金が出ない」については、すでに国は方針を転換し、広域化を補助金の要件とはしていません。

2) 県北ブロックは実質解散

広域化計画は、国、県の計画であるから進めなければならぬということでしたが、県北の久慈、二戸地域の広域化計画は、事務組合までつくりましたが、実質解散しました。

解散に至った経緯(いちのへ議会だより第188号・平成26年7月25日発行) 抜粋

県北ブロックは、平成22年4月「岩手北部広域環境組合」を設置しましたが、その後、事業実施する中でごみ処理広域化に対する様々な問題点が明らかになり、長期的視点に立つとメリットが少ないと判断した。

広域化の問題点としては、

① 通常経費の増加

広域化により、処理場自体の建設経費と運営経費は若干削減できるが、今後のランニングコストとして、各市町村の負担運送費が増加すること。

また、大阪府や香川県より広い範囲から収集することは、非効率ではないか。

② 施設規模の必要性

今後の人口減少や、ごみ資源化処理により、排出が抑制されることが想定され、日量100トン確保できなくなるのではないか。

③ 交付金

県ごみ処理広域化計画に沿ったものでなければ、国の循環型社会形成交付金が受けられないのか。

しかし、全国的には北海道内の市町村や離島など処理量を確保できずにもっと小さな施設整備をしている事例を確認し、環境省と県に交渉しました。

その結果、ごみ処理広域化計画の目的に沿うと判断する十分な理由が、市町村で共有される場

合は変更も可能である」との回答を得ました。そのことから、平成25年12月末の解散を決めましたが、九戸村議会のみが否決したため、解散できませんでした。

その後九戸村を除く7市町村議会で、平成28年3月に組合を脱退する旨の議決を行いました。

3) 1カ所が一番安いのは本当か

広域化してごみ焼却施設は1カ所の方が安いという理由については、現在公表されている総事業費は、15年間で約858億円、当初の総事業費730億円から100億円以上も事業費が増えています。この総事業費には、収集運搬費約130億円と起債返還約70億円が含まれています。

これらを合わせると1000億円を超える大型公共事業になります。ちなみに、盛南開発総事業費790億円を超えるものです。

関係市町の住民一人当たり22万円、4人家族では88万円にもなります。

燃やすことだけに固執する計画でいいのか大きな議論が必要です。

また、ここで示された事業費は、一日焼却量500トンで算出してきましたが、今後炉の大きさを見直すことになっています。そうなる

と、今後令和14年の稼働時までには、12.5%のごみ減量目標が達成されるとすれば、360トン程度の炉で間に合います。

一カ所にした方が安いとされていた根拠についても、スケールメリットの効果が小さくなることとなります。今後のランニングコストを考えた場合に一概に安いと言い切ることはできません。

また、500トンには、災害対応の50トンを含めてスケールメリットの効果を大きくしています。一般ごみと災害ごみを一緒にしているのもリスク上問題があります。

4) なぜ盛岡市の負担割合を大きくしたのか

事業を進めていくうえで、関係8市町の負担割合が示されています。この負担割合では、盛岡市は広域化を進めるために「譲りに譲って」盛岡市の負担を大きくし、その他、建設予定地の住民への迷惑料として、温水プール施設などが含まれていますが、施設整備費がまだ未定にもかかわらず、整備費の8割も盛岡市が負担します。なぜ盛岡市の負担割合を大きくしたのか谷藤市長は明らかにしていません。

5) 2050カーボンニュートラルに逆行

ごみ焼却炉からは、二酸化炭素や有害物質が排出されています。2050カーボンニュート

ラル達成が世界的な目標になっているにもかかわらず、焼却一辺倒の計画を変えようとしていません。

6) リスク回避からも問題あり

焼却炉を一カ所にした場合に、東日本大震災を経験していますが、災害事故等で施設が使用できなくなることが想定されます。リスクを回避するために焼却施設は分散するべきです。

このようにごみ処理広域化計画を強引に進める根拠は無くなっています。

7) 国も方針転換

国は徹底したごみ減量と資源化、焼却炉のサ
イスはなるべく小さくするという方針に転換してきています。このように、広域化を進める根拠はことごとく破綻しています。

今こそ時代遅れになった焼却中心のごみ処理広域化計画は、白紙撤回して、ごみ減量・資源化を前面にしたごみ処理体制への転換が必要です。

(2) 大型処理施設化で、自然環境と住環境

への影響が集中

1) 高性能な設備を導入しても、焼却施設からの一定の有害物質の排出は避けられず、焼却量が増えればそれに応じて有害物質を含む排ガスの総量も増えます。今度の計画では、現在稼働中の

盛岡クリーンセンター（一日処理量（実績）約250トン）の2倍の量を焼却可能にすることになります。周辺の生活環境や農産物へ影響を及ぼします。一部地域への環境負荷の押し付けは避けるべきです。

候補地の盛岡インターチェンジ付近は、国道46号と西周りバイパスが通っていて、商店街、住宅地、保育園、小中学校等がある日常生活圏です。雫石川を挟んだ太田地区も住宅密集地と農業地帯になっています。しかも秋田県側から盛岡市への玄関口でもあります。

2) 広域化は、ごみの収集運搬車両の量と運搬距離を増大させ、環境への負荷が大きくなります。運搬距離が長いところは、途中に中継地を設け、小さな収集車から大きな収集車に積み替えるといいます。

「基本構想」では、運搬車両は、一日600台前後と見込まれており、交通渋滞、その他の環境悪化、燃料費などの費用増になります。

3) 河川氾濫・浸水の危険も

異常気象、巨大地震が頻発する日本で災害への備えは重要ですが、候補地に決定された盛岡インターチェンジ付近は雫石川の側であり集中豪雨による氾濫の危険性があります。

盛岡市にごみを収集運搬する関係7市町で

は、最近でも集中豪雨により河川の氾濫や土砂崩れがおきており、運搬経路が安全に確保できる保証はありません。また、今回の新型コロナウイルスなどの感染症対策も出てきます。広すぎる広域化はさまざまなリスクともないと思います。一旦白紙に戻し、再検討するべきだと考えます。

4) ゴミ減量・資源化に逆行

また、県央ブロック8市町では、これまでのごみに対する対応も大きく異なります。

環境や農業を重視した循環型地域づくりは、身近なところで住民参加によるごみ減量や資源化・堆肥化などがとりくまれてきたからこそ、暮らしのなかに根付いていることも少なくありません。

紫波町は、藤原元町長時代に全町民の議論を踏まえ、新世紀未来宣言、紫波町循環型まちづくり条例、紫波環境・循環基本計画を作成し、100年の体系でこれまで循環型まちづくりを目指してきています。

ごみの発生抑制、廃棄物焼却由来のCO₂削減が求められているなかで、ごみ処理広域化・大型施設化は、住民参加のごみ減量への意識を衰退させ、ごみ減量・資源化への逆行を生じさせかねません。

3. いよいよ明らかになった住民不在の広

域化計画

12月議会の状況から明らかになったことは、各市町の当局側が広域化計画の内容について、よく理解していない。多くの議員もよく理解していない。ましてや住民には行政から住民説明会などで一切知らされてこなかったと言えます。

平成27年に基本構想ができてから7年経過し、この間事務的に協議を進めてきたが、8月30日の推進協議会でも焼却施設以外は何も決めず先送りにせざるをえなかった。

この推進協議会では、令和5年2月に一部事務組合を設置することが明らかになったが、課題解決のために1年組合設置を延ばしたにもかかわらず、結局は前回から何も変わっていない。本来であれば組合設置はできないはずだ。

これは、谷藤市長が負担割で大幅に譲歩して関係市町の首長に根回ししたことによると言われています。いくら根回ししようが、問題の本質は変わっておらず、むしろ状況を悪くしていると言えます。

このような状況になっているのは、本来廃棄物行政の基本は、ごみ減量・資源化なんです。これを後回しにしてきたことによると、おおもとの原因は、岩手県の広域化基本構想が20年以上前につくられたものであり、時代

要請に対応できてこなかったことによりです。

県央ブロック広域化基本構想は、県の基本構想に引きずられたままに進めてきたまさに時代遅れの計画といわざるをえません。県は、県の基本構想を白紙撤回する責任が問われています。

関係市町の12月議会では、関係市町の首長や多くの議員が、「広域化すれば安くなる」「いまさらやめるわけにはいかない」「やめると孤立する」というだけでなぜそうなのかという理由は一切述べていない。

現時点でも何も決まっていないのだからやめることは簡単なことであると思います。

この計画の進め方についても、当初から住民には知らされず事務レベルで進めてきたものであり、市民の間では当然議論も起こることはなかった。議会にしても、広域化の問題について一部の議員は警鐘を鳴らしてきたが大きな議論にしてこなかった。行政側、議会にも大きな責任があると言えます。

今後一部事務組合が設置されたとしても先送りされた課題が解決されるということではなく、むしろより現実的な対応が求められるとすれば、大きな矛盾を浮き彫りにすることになると言えます。

このような中で、広域化計画をきっかけに関

係市町の住民による8市町連絡会が結成され、住民運動が活発になってきており、住民にも次第に広域化の問題点について理解されるようになってきています。

ごみは燃やすのが当たり前という意識を変えていく大きな機会になっています。この広域化計画は、15年間で1000億円を超える大型公共事業です。いままら国民そして地域住民に大きな負担を強いる大型公共事業も時代遅れといわざるをえません。ましてや、この事業費の多くが大手の特定企業数社で独占することになり、お金が出ていくだけです。住民は半永久的に負担しなければなりません。

それより、広域化で大きな焼却炉を造るよりも、徹底したごみ減量と資源化を行うこと。そのため分別作業を徹底することです。地域から出たごみは地域で処理するという自区内処理を基本にしていくことです。これにより、地域に新たな雇用が生まれ、生きたお金の地域内循環ができるようになります。

4. 住民運動の発展

(1) ごみ処理問題を考える8市町連絡会結成

2022年9月6日関係市町から28名の住民団体、議員らが出席し、8市町連絡会を結成することを確認しました。

10月14日に第2回8市町連絡会を開催し、正式名称を「ごみ処理問題を考える8市町連絡会」としました。

この間の取組みとして、首長への公開質問状の提出や行政から担当者を呼んでごみ問題についての説明を求め、議員へのごみ問題についての情報提供、首長への要請、街頭宣伝行動などすでに取り組んできた経験や今後の取り組みについて話し合われました。

現在、盛岡市以外に滝沢市、八幡平市、紫波、岩手町で連絡会が結成されました。

(3) 今後の8市町連絡会の活動方針

- 1) 情報収集と住民による監視
- 2) 盛岡広域環境組合議員への公開質問と懇談の申し入れ
- 3) 8市町連絡会の連携強化と情報共有

- ① 学習会と署名の取組み
- ② 住民へのアピール行動

・街頭宣伝行動、チラシ宣伝、SNSの活用

- 4) 一部事務組合と関係市町行政当局への要請活動等

◎一部事務組合への要望

- ① 盛岡広域環境組合の事業の公開性を強く要望すること。
- ② このため組合のホームページを開設し事業内容

を遅滞なく公開すること。

③ とくに組合の議会の詳細な議事録を公開すること。

④ 市民・町民からの要望をうける窓口を設けること。

◎行政当局への要請

① 一部事務組合への議員の任命は、ごみ問題について精通した方を選定すること。

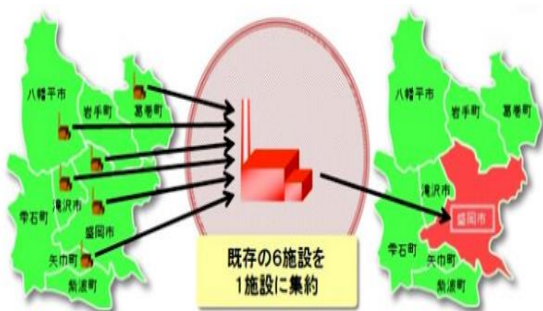
② 経費節減のための徹底したごみ減量・資源化の実行とプラスチックの資源循環の要請

③ 地域住民と協働した分別収集の協働計画の策定要請

④ ごみ処理機等への補助制度の導入

⑤ 署名活動の推進

⑥ 教宣活動



「広域化」のイメージ図 (盛岡市の取より)

戦争体験の発表・懇話会開く

戦争の悲惨さ語り、反戦平和の決意新たに

宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会

代表 前川 慧一さん

2022年12月25日

岩手県宮古市の市民交流センターで、太平洋戦争開戦81周年(12月8日)に思いをいたし

あの戦争は何だったのか、いま、あらためて戦争の時代をふりかえり、戦争しない日本、ゆるがぬ平和を次世代へ、との呼びかけで、体験集「戦争の時代を生きて」(2016年より毎年発行)第7集の発表・懇話会が開かれました。主催は宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会で地域平和委員会、年金者組合の協力のもとに45人が参加しました。

この体験集への寄稿・証言者は17人で全員が出席し、自ら朗読(代読者含む)、戦争の無謀、悲惨を語り、参加者と共に反戦平和の決意を固めました。

内容の一部

◎妻の兄は、ソ連との国境から南洋のパラオ島に転戦、そこでは武器も食糧も不足、負け戦の連続・・・米軍の砲撃で失明、捕虜となり終戦後帰国、両目に白い包帯を巻いて自宅玄関で「ただいま帰って参りました」とみんなは号泣、母は「な

んのためにこんな目にあうのか」と嘆き悲しんだ。

◎春に、風につれて黄砂が飛んでくる頃になると、祖父、戦場で亡くなった叔父たち、そして逃避行中に亡くなってしまった3人の従兄弟は今も中国大地に眠っています。黄砂にあうたびに、私に会うために風につれてきてくれるように思えて、砂一粒も私にとっては大切なもののように感じられます。

◎兄(中嶋 茂)(23才)は特攻機護衛隊で特攻を実行させて確認して帰還する任務・・・「死に代りて国の為、仇なす国を撃ちてし止まむ」(遺書)を紹介・・・「お母さん江」の岩手県出身 特攻隊員 佐藤新平(23才)の日記を併読、無念の思いを共有しました。

参加者からのアンケートのよる感想

○「校正も進め方も非常に良かった」

○「胸をうたれ、なんども涙が出てきました」など。

発表会は、最後に憲法9条を朗読し、戦後焼け跡にひびき、軽快なリズムで人々をはげました。「リンゴの唄」(歌、並木路子)を合唱し、閉会しました。

地名の話―40

高橋 宏 壽 さん

あかおどり【赤尾鶏】佐比内字芳沢

柳田国男『石神(シヤクジ)問答』に載っている遠野の佐々木喜善の書簡です。

中世豪族の占拠(センキョ)したといわれる館には、鶏の口碑(コウヒ)むかしからの言い伝えが多く、黄金にてつくりし鶏を埋めたとか、その鶏がときどき出て時をつくるという話は、私の知っているものだけでも四、五ヶ所これあり候

また、同じく柳田国男『山島民譚(ミンタン)』伝説や昔話集』には、

陸中上閉伊郡などには金の鶏を埋めたという所がいくらかもある。たとえば青笹村の宮館の跡、土淵村大字枅内の角城館の跡、松崎村の八幡館の跡のごときいずれもそれである。屋号赤尾鶏

の由来も雄鶏に似た金塊がでたからという言い伝えがある。

